

平成 26 年度を迎えて



(独) 労働者健康福祉機構中国労災病院

院長 碓井 亜

昨年7月の参議院総選挙では自民党が圧勝して国会での衆参ねじれ現象が解消し、自公の与党が衆参両院において過半数を占めることになりました。以前より懸案であった消費税は平成26年4月より8%となり、平成26年度診療報酬改定の答申も年が明けて開示され、在宅医療に向けて大きな舵取りが切られてまいりました。

この様な動静の中で、中国労災病院の平成25年度に取組んだことを紹介させていただきます。

1) 病院機能評価 ver. 1.0 受審

前回の病院機能評価 (ver. 5.0) は平成20年9月受審後、早くも5年が経過して更新時期となり、昨年7月18日、19日の2日間にわたって新たな病院機能評価 ver. 1.0を受審しました。その結果、サーベイヤーから地域医療連携などが「秀れている」との評価を頂き、同年10月に認定されました。この受審に向けて当院の全職員が協力してあたったことが大きな収穫であったと思っています。

2) 地域医療連携室の強化

例年、正月明けには当院の病床が満床となって、患者さんの受入れには先生方には多大なご迷惑をお掛けしてきたのではないかと危惧しております。当院退院後のバックアップベッドの不足等、直ぐには解決が難しい問題もございますが、昨年秋より地域医療連携室の常勤専従看護師を配置して入退院の円滑化を図っておりますので、引き続きよろしくお願い致します。

3) 広島県地域医療再生計画への参加

広島県地域医療再生計画の中で、心不全による再入院率を1/2とすることを目的とした「心不全地域連携サポート体制の構築」プロジェクトに参加し、患者さんの教育や医療人材の育成を進めています。また、広島県内における医療情報を共有化するインフラ整備事業「広島地域医療連携情報ネットワーク (HMネット)」に参加し、県医師会や公的病院と協力して地域の医療連携強化に役立てるべく、医療情報の開示を進めています。連携施設の皆様方におかれましては、HMネットへの積極的なご参加を頂きたくご案内申し上げます。

4) 広島県がん診療連携拠点病院

平成24年3月、当院は「広島県がん診療連携拠点病院」として指定され、がんオープンカンファレンスの開催、緩和ケアチーム再編・強化、院内がん登録体制の整備、5大がんの地域連携パスの導入、といったことに取組んでまいりました。また、第2回緩和ケア研修会は、今年2月15日(土)、16日(日)の2日間にわたって当院主催の

もとに開催致したところでは、今後も定期的な開催を予定しておりますので、是非ご参加いただければ幸いです。

以上、当院の平成 25 年度の取組みについて説明致しましたが、平成 26 年度も「患者中心の良質な医療と地域医療への貢献」を病院の理念とし、引き続き地域の方のご要望にお応えするべく努力して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

平成 26 年 4 月